

新型コロナウイルス感染について

北海道でも感染拡大が危惧されている新型コロナウイルス感染症。行政を始め、多くの専門医が言われているように「正しく恐れる」ことを改めて確認したいと思います。

飼い主様（市民の皆様）へ

北海道のホームページから

新型コロナウイルスを防ぐには

新型コロナウイルス感染症とは

ウイルス性の風邪の一種です。**発熱やのどの痛み、咳が長引くこと（1週間前後）が多く、強いだるさ（倦怠感）を訴える方が多いことが特徴**です。感染から発症までの潜伏期間は1日から12.5日（多くは5日から6日）といわれています。

新型コロナウイルスは飛沫感染と接触感染によりうつるといわれています。

飛沫感染	感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。
接触感染	感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。

重症化すると肺炎となり、死亡例も確認されているので注意しましょう。特に高齢の方や基礎疾患のある方は重症化しやすい可能性が考えられます。

日常生活で気を付けること

まずは手洗いが大切です。外出先からの帰宅時や調理の前後、食事前などにこまめに石けんやアルコール消毒液などで手を洗いましょう。

咳などの症状がある方は、咳やくしゃみを手で押さえると、その手で触ったものにウイルスが付着し、ドアノブなどを介して他の方に病気をうつす可能性がありますので、咳エチケットを行ってください。

持病がある方、高齢の方は、できるだけ人混みの多い場所を避けるなど、より一層注意してください。

発熱等の風邪の症状が見られるときは、学校や会社を休んでください。

発熱等の風邪症状が見られたら、毎日、体温を測定して記録してください。

こんな方はご注意ください

次の症状がある方は「帰国者・接触者相談センター」にご相談ください。

風邪の症状や37.5℃以上の発熱が4日以上続いている
（解熱剤を飲み続けなければならないときを含みます）

強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある

※ 高齢者や基礎疾患等のある方は、上の状態が2日程度続く場合

センターでは、症状などをお聞きしたうえで、必要な場合は、専門の「帰国者・接触者外来」などの医療機関をご紹介します。

【帰国者・接触者相談センター】	電話番号	開設時間
● 札幌市保健所 （救急安心センターさっぽろ【受診相談】）	011-272-7119 （#7119）	24時間
● 旭川市保健所	0166-25-9848	平日 8:45～17:15
● 市立函館保健所	0138-32-1547	平日 8:45～19:00
● 小樽市保健所	0134-22-3110	平日 8:50～17:20
※上記以外にお住まいの方		
● 道立保健所	※以下参照	平日 8:45～17:30
● 北海道保健福祉部健康安全局地域保健課 ※今後24時間体制を検討中であり、改めてお知らせします。	011-204-5020	平日 17:30～21:00 土日祝 9:00～21:00

（道立保健所の相談センター一覧） ※以下のURLまたはQRコードからご覧いただけます。
<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kth/kak/tkh/hokensho/hokensho-kikokushasessyokusya.htm>



ペットたち（飼い主様）へ

「ペットにもうつるの？ペットからうつされるの？」といった質問をされることも多く、獣医療に従事する私達にとっても、日々刻々と変わる状況や情報に適切に対応していく必要があります。中国では動物が感染を広げるという噂が出回り、ペットである犬や猫が処分されるというショッキングな情報が入ってきています。飼い主の皆様が混乱してしまわないよう、情報を発信する側として、現時点(2020年2月11日)で信頼できる情報としてお伝えします。

AVMA(アメリカ獣医師会)、WASVA(世界小動物獣医学会)の正式な見解からのQ&A

Q：自分や病院スタッフを守るにはどうしたらよい？

A：前述の**市民の皆様へ**を参考に対処してください

Q：新型コロナウイルスはペットや家畜に感染しますか？

A：犬にも、猫にも、以前からコロナウイルス感染症はありますが、それは**動物種独特**のものであり、種を超えて感染はしません。犬コロナウイルスや猫コロナウイルスは **α コロナウイルス** に属し、今回の新型コロナウイルスは **β コロナウイルス** に属します。すなわち、犬のコロナウイルスは犬でのみ、猫のコロナウイルスは、猫でのみ感染します。同様に、2019 n-CoV 新型コロナウイルスは、ヒトの間でのみ感染します。

※ウイルスは、まれに突然変異を起こし変化します。将来的にはどうなるかはわかりませんが、現時点では、種を超えた感染が、2019 n-CoV にはないと言われています。

・新型コロナウイルスが、ヒトからペットに移り、ペットは発症しないがウイルスを所有し、次のヒトに伝染させるという「ペットの媒介」も、今のところは否定されています。

Q：自分が病気の場合、ペットや動物との接触は避けた方がよい？

A：病気の時はペットや他の動物達を扱うのはやめましょう。新型コロナウイルスがペットに感染した報告はありませんが、いくつかのタイプのウイルスは動物に病気を起こしますし、動物と人の間で感染する可能性はあります。詳細がわかるまでは動物との接触を避けマスクをつけてください。

Q：新型コロナウイルスにかかった人が近くにいる場合に、ペットが病気になったらどうしたら良い？

A：まず獣医師に電話をして、ペットが新型コロナウイルスにかかった人と接触した可能性があることを伝えてください。病院スタッフと話す前に動物を連れて行かないでください。

Q：獣医師に、新型コロナウイルス感染予防のために犬コロナウイルスのワクチンを接種してもらう方がいいのか？

A：市販されている犬コロナウイルスのワクチンは腸内感染防御を目的としていて、新型コロナウイルスに何らかの防御効果があるかもしれないという証拠はありません。

WHO（世界保健機関）が一般市民向けに「Myth-busters（都市伝説バスターズ）」の中であげている画像です。



< 和 訳 >

現在、コンパニオンアニマル（犬や猫などのペット）が新型コロナウイルスに感染するという科学的根拠はありません。

しかし、ペットと触れ合った後に石鹸と水で手を洗うことは常に推奨されます。手洗いは、ペットと人を行き来する可能性のある大腸菌やサルモネラ菌などの様々な一般細菌から守ります。

< 参 照 >

① https://wsava.org/wp-content/uploads/2020/02/nCoV_WSAVA-Advisory-Document-final-05.02.2020.pdf

② <https://www.who.int/emergencies/diseases/novel-coronavirus-2019/advice-for-public/myth-busters>

まだ不安が続く状況下ではありますが、冷静に、人もペットも日頃から様々な病気の予防を心がけておきましょう。一日も早い終息を願います。